

## 二宮まや教授研究業績

### 論文

- ・ ハンス・カロッサ『ルーマニア日記』（『現代ドイツ小説研究』クヴェレ会）1966
- ・ ホーフマンスタール作『バッソンピエール元帥の体験』—原作との比較から—（『文学論集』21巻1号 関西大学文学会）1971
- ・ ホーフマンスタール作『痴人と死』へのアプローチ（『Quelle』25号 クヴェレ会）1972
- ・ C. F. Meyer の二つの詩について—FülleとStrenge—（『独逸文学』18号 関西大学独逸文学会）1973
- ・ C. F. マイヤーの詩にみられる死者（『Quelle』28号 クヴェレ会）1975
- ・ C. F. Meyer の断り書きの詩—私はここにはいない—（『独逸文学』20号 関西大学独逸文学会）1976
- ・ C. F. マイアー『尼僧院のプラウトゥス』（『ドイツ短編小説の系譜』クヴェレ会）1977
- ・ C. F. マイアーの„Das Amulett“—世界史と個人史の接点としての夢—（『独逸文学』21号 関西大学独逸文学会）1977
- ・ C. F. Meyer の詩„Die tote Liebe“（『独逸文学』22号 関西大学独逸文学会）1978
- ・ C. F. Meyer の詩における藝術品の位置について（『独逸文学』23号 関西大学独逸文学会）1979
- ・ C. F. Meyer の詩「夜の物音」—象徴としての音—（『独逸文学』24号 関西大学独逸文学会）1980
- ・ C. F. マイアーの抒情詩—「二つの帆」の完成への道をたどりながら（『十九世紀ドイツ文学の展望』郁文堂）1981
- ・ クライスト『O 侯爵夫人』試論（『独逸文学』26号 関西大学独逸文学会）1982
- ・ C. F. マイアーの『グスターヴ・アドルフの小姓』—自己実現のための自己否定—（『文学論集』33巻3号 関西大学文学会）1984
- ・ アルニム研究覚え書き（『文学論集』38巻2号 関西大学文学会）1989
- ・ アヒム・フォン・アルニムの„Die Majoratsherren“（『独逸文学』34号 関西大学独逸文学会）1990

- ・ゲーテの抒情詩―「峰々にいこいあり」をめぐる―（『ゲーテ年鑑』第33巻 日本ゲーテ協会）1991
- ・メーリケの詩 ,Um Mitternacht‘ を読む（『十九世紀ドイツ文学研究会会報』第61号）1991
- ・アヒム・フォン・アルニムの『ラトノウ砦の狂える傷病兵』―時代とのかかわりから―（『文学論集』文学部創設70周年記念特輯 関西大学文学会）1995
- ・アヒム・フォン・アルニムの『奇妙な出会いと再会』―ドイツ婦人の活動を中心に―（『文学論集』47巻4号 関西大学文学会）1998
- ・事物と詩のことは―アイヒェンドルフとC.F.マイアーの場合―（『文学論集』49巻4号 関西大学文学会）2000
- ・アヒム・フォン・アルニムの『牧師館での宿営―先の戦争から生まれた一つの物語』について 翻訳付（『文学論集』51巻4号 関西大学文学会）2002
- ・アルニム家の城館（マルジナリア）（『独逸文学』47号 関西大学独逸文学会）2003

#### 翻訳・その他

- ・『世界名詩集大成 8 ドイツⅢ』（平凡社）のうちインゲボルク・バッハマンの詩 2編 1959
- ・『現代ドイツ詩集』（『Quelle』10号 クヴェレ会）のうちインゲボルク・バッハマンの詩 2篇 1962
- ・『世界名著大辞典』第6巻（平凡社）のうち2項目執筆 1961

#### 口頭発表

- ・ホーフマンスタール作『バッソンプィエール元帥の体験』―ゲーテ作との比較から―（関西大学独逸文学会第35回研究発表会）1970
- ・C.F.マイアーの抒情詩― ,Zwei Segel‘ を中心に―（十九世紀ドイツ文学研究会第8回特別ゼミナール）1980
- ・ゲーテとドイツの抒情詩（「ゲーテ誕生日の夕べ」日本ゲーテ協会の講演）1990
- ・メーリケ ,Um Mitternacht‘（十九世紀ドイツ文学研究会第17回特別ゼミナール）1991

随 想

- ・ 日本語の復活（『ひろの』11号 ドイツ語学文学振興会）1971
- ・ 読んだあとで考える本を読めー夏休みに親子で読む一冊の本の紹介（『会報』35 関西大学教育後援会）1973
- ・ もう一人の自分ードッペルゲンガー考（『関西大学通信』第53号 関西大学広報委員会）1975
- ・ 「木々の新芽」他 エッセー11編（ラジオ放送）（『あしぶえ』VI 関西大学出版・広報部）1977
- ・ ある女子学生の手紙に想う（『大学』関西大学広報委員会）1977
- ・ 私自身の大学入試（『蛍雪時代』1981年1月号）1981
- ・ 教養は学問か？学問は教養か？（『大学』関西大学広報委員会）1982
- ・ 「ことば」について想うこと（『ひろの』22号 ドイツ語学文学振興会）1982
- ・ これからの女性ー育児から男性を疎外してはならない（『これからどうなるー日本・世界・21世紀』岩波書店）1983
- ・ 家庭とは男と女が心を合わせていのちを育むところ（『健康な子ども』No.145 日本生活医学研究所）1984
- ・ わが師わが学ー手塚富雄先生（『大学』関西大学広報委員会）1985
- ・ 宝塚あれこれ（『Laterne』62号 同学社）1989
- ・ 自分の頭で考える（『葦』No.94 関西大学教育後援会）1993